

“有害物資90%削減”
という広告に
だまされるな!!



新型タバコ(加熱式タバコ)の真実

加熱式タバコ販売会社の“有害性成分 約90%低減”という広告は、タバコの200種類以上の有害物質のうちの9種類だけを調べた結果です。

FDA(米国食品医薬品局)は、57種類の有害物質(大半が発がん物質)のうち、56種類は紙巻きタバコより加熱式タバコの方が多く含む、という調査を発表しています。また、加熱式タバコからは未知の化学物質や発がん性物質も検出されています。

■加熱式タバコの販売会社が報告しなかった57成分の含有量



煙が出ないから

受動喫煙が発生しないわけではない!!

たしかに加熱式タバコからは煙が出ないので、副流煙による受動喫煙のリスクは限りなく低いと言えます。

しかし、受動喫煙は吸った人から吐き出される呼出煙からも生じます。加熱式タバコを吸った人から吐き出された煙(エアロゾル)は周囲に大量に漂います。エアロゾルには加熱式タバコの有害成分が含まれ、周囲の人の健康を損ないます。

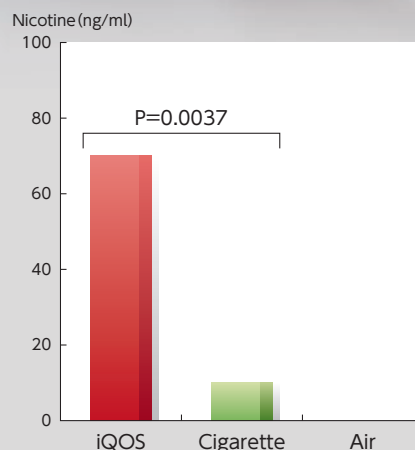
加熱式タバコを使用する日本人妊婦から生まれた乳児には、アレルギーの有病率が高いという調査結果もあります。*

※Masayoshi Zaitzu 他;2022

新型タバコは、禁煙へのステップにはならない!!

加熱式タバコは紙巻きタバコよりも、ニコチンの血中濃度が上昇するという報告があります。ニコチンの依存が強まり、禁煙しづらくなる可能性があります。また、加熱式タバコにかえたことで、喫煙頻度が高まるというデータもあります。禁煙へのステップのつもりが、かえって禁煙が難しくなるかもしれません。

■煙への暴露後のニコチン血中濃度(ラット)



参考: <https://www.tokyo.med.or.jp/wp-content/uploads/application/pdf/nosmokingQandA.pdf> (東京都医師会)